

私の話は飴チョコの天使です。
一千九百二十三年にあらわしました。

飴チョコの天使のさっかは小川未明です。
一千八百八十二年、にいがたけんにうまれました。
一千九百六十一年、しにました。
わせだ大学を卒業しました。
みじかい話と子供の本とフェアリーテールをかいました。
おがわさんは日本のフェアリーテールのお父さんです。

メインキャラクターは飴チョコの天使です。
天使は飴チョコのはこにえです。
でも、天使はたましいがいます。
青い、うつくしい空の下に、飴チョコの天使をこうじょうにせいぞうしていました。

セッティングは青い、うつくしい空の下です。
飴チョコの天使は長いうねうねとした道でほうぼうの町や、村や、都会にむかっておくられるのでありました。

さいしょう、飴チョコの天使はせいぞうしていました。
つぎに、いろいろ所におくられました。
この天使のうんめいは、本当にいろいろでありました。
れいに、天使をやぶってすてられました。
たくさんの悲しいうんめいです。
天使はしんで空に行きます。
天使はうつくしいけしきを見ました。
でも、天使が「もう二度と、この都会へはこられないばかりか、このけしきを見ることもできないのだ」と言いました。
だから、天使はうちがありません。
でも、飴チョコの天使はしあわせな人々を作ります。
さいご、あるの日、もう一度、天使はうちのけしきを見ました。
青黒い空の下に、ほしをひかっておわりです。

私は、話が面白くて悲しいと思います。
でも、終わりが好きです。

天使のようなかみが面白いと思います。
そして、私はもののあわれのテーマが好きです。

はっきりしないことは。。。
こうじょうはたましいをなんとせいぞうしましたか。

物と所をしたためることをなりました。
そして、せかいはきびしいです。
でも、せかいもきれいです。